

協議員から出された意見

① P I 外環沿線協議会の進め方について	
栗林協議員の資料	
主張	・外環に反対とか賛成とかいうものはさておき、現在、問題（道路公団の民営化、それに伴う償還、国土交通省が自動車交通量の予測を下方修正している点等）になっていることを、我々はどうしゃくすべきかということの問題提起したい。（栗林協議員） ・東京都が出している調査報告書は、外環に関して東京都が正式に出したものであり、協議会の場に資料として出すべき。（栗林協議員）
意見	・意見書の中で、人口が減っていったら車が減るというような意見があるが、ドア・ツー・ドアを経験した人が車を放棄して、公共交通機関を100%利用するということは考えられず、人口の減った割合ほど車は減らないと思う。（米津協議員） ・アクアラインと、外環の採算性を一緒にするのは比較する対象が違うのではないかと思う。本四架橋、北海道の高速道路とアクアラインとが同じレベルではないか。（米津協議員）
江崎協議員の資料	
主張	・P I 協議会の目的は、幅広く意見を聞くP I 方式で話し合うということであり、より関心の高い傍聴者の方々の意見や感想を聞き、参考にしながら話し合うことがこのP I 協議会の趣旨に合っていると思う。（江崎協議員）
意見	・意見をいただくのであれば、氏名等の記載をできるようにした方が責任のもてる意見が出てくるのではないか。（鈴木協議員） ・公開する必要はないが、書いた人の所在がはっきりするよう、住所、名前等は書いていただくよう要望したい。（米津協議員） ・意見を持っている方がどういう場所に住んでいるのか、住んでいる場所によって違ってくるので住所がなければ意味がない。（渡辺協議員）
質問	・沿線7地区の住民の意見が大事であり、沿線住民の意見をどうやって吸収するかというのが一番大きな問題である。これからの広報の仕方も含めてどのように考えているのか。今までどおり「外環ジャーナル」みたいな一方的なやり方でやるのか、あるいは協議会として広報を出せるのか。（濱本協議員） ・有識者委員会とP I 外環協議会の関係について、この前の有識者委員会で、有識者委員会も必要性の議論を始めるような話が出ていたが、委員会でも必要性の議論を始めるとしたら、二頭立ての議論になってしまい、どう整理していくのが重要。（栗林協議員）
意見	・これから外環に関する、さまざまな資料が出てくると思うが、それに対して、不足資料の要望、出された資料に対する質問がある。出されてきたものについて、聞きっ放しでなく、意見を収録すべき。（新協議員） ・意見と質問だけで、討議というのはどういう場でやるのかわからない。どのようなまとめ方でこのP I をやっていくのかということを協議員で議論するべき。（濱本協議員） ・それぞれ地域で抱えている課題も問題意識も違うので、それぞれの立場でどういうことを論議したほうがいいのかということを各協議員から出してもらうべき。（武田協議員） ・進め方について、各協議員の方から具体の案を出してもらう形をとったほうが、議論が集約しやすいと思う。（伊勢田協議員）

② 首都圏の交通の現状と課題について	
質問	・ NO₂は、測定装置の置いてある場所によって数値が違って来るので、正確な住所を教えてください。（栗林協議員） ・ 資料は現実のデータに基づいて出された内容なので、その範囲の中という形で理解していればよい。（大貴協議員）
意見	・ 資料－５－１４ 抜け道となっている上石神井駅付近の写真は、たまたま上石神井駅のところにある踏切で車が止まっているだけなのに、この写真だと抜け道が渋滞しているような印象を受ける。（須山協議員） ・ 首都圏の交通の現状と課題については、質問を聞いただけで、何も議論していない。（濱本・橋本協議員） ・ 首都圏の交通の現状と問題については、１回しか議論していないので、もう少し細部にわたっての交通量の整理が必要。（栗下協議員）

③ 必要性の有無について	
大寺協議員の資料	
主張	・ 議論の内容をどのような順番で進めるかについて、準備会での確認内容を踏まえ提案した。（大寺協議員）
意見	・ 必要性の有無について、いろいろなテーマがあると思うので、協議員のほうからもうどういふものがあるかということ踏まえて、議論の順番を決めたほうがいいのではないかと。（濱本協議員） ・ 予定の月だけでも削除した方がよい。（橋本協議員）
成田協議員の資料	
主張	・ 今後の必要性の議論を進めるにあたり、広域的な視点での議論の題材として提案した。（成田協議員）
意見	・ 都の都市づくりと交通政策について処理、検討するためにPI協議会の設立に同意したわけではない。昭和41年以前の何も無い状態で、外環道路の必要性の論議をするのがPI協議会のはずである。（渡辺協議員） ・ 都市づくりと交通政策について東京都はとうとう東京都をつくり上げようとしているのか。国土交通省は、国と地方との関係で、東京都というこの巨大都市ができ上がっていく一方、過疎に拍車がかかっている。この状態をどうしていこうとしているのか。（新協議員） ・ 従来は、外環の道路づくりだけが主体的なものになっていたが、本来、この都市をどうするんだということがむしろ主眼であるべきであり、都市づくりと交通政策と据えたということは、非常に評価すべきである。（武田協議員） ・ 東京都より、都市問題としての交通問題を提起してきているわけだから、外郭環状道路の整備ができたときに、環境問題について都市がどうよくなっていくのかということも説明されるべき。（鈴木協議員） ・ 今後についての提案、都市づくりと交通政策、これらを協議員が共通の認識とした中で議論を高めていくことが必要。（水上協議員） ・ 政策全般、ましてや東京の都市をどうするかという全体の話は、非常に難しく限界があるため、端的に交通問題、交通政策をどうするのか。そこから、容量拡大の一貫として外環があるのかということ議論するべき。（倉田協議員） ・ 都市づくりと交通政策ということは確かに必要であるが、このPIの場で都市づくりまで議論を進めるかということが果たしていいのか。（栗下協議員）

④ その他	
意見	・ 個人情報の取り扱いについて、不特定多数の目に触れる可能性のあるような場合には、十分配慮を持って取り扱っていただきたい。（江崎協議員） ・ PI協議会で必要性の議論をしている最中にも、東京都の石原都知事は中央環状線や外環は必要だと言っており、非常に奇妙な感じがする。PIをしている間は、来年度以降の予算や施策の中に推進するような事柄を盛り込むのはやめていただきたい。（江崎協議員） ・ 課題について、協議会の最後に、司会者がまとめて要点を確認した方がよい。（橋本協議員）